

— Prologue —

■本書を作るにあたって 千草明

私はおそらくあなたと同じで、過去にトレードで大きな損失を出してきました。無知なころの私は、投資と聞くと、難しいイメージしかありませんでした。だから、株式などもあまり興味がありませんでした。しかし、2005年くらいからでしょうか、政府の金融ビックバン政策によって、個人の為替取引が解禁になりました。「FX」という文字がマスコミやネットにあふれ、なんでも個人でも少額から資金運用ができる夢のような金融商品だという説明を受けました。

さっそく50万を用意して恐る恐るやってみました。初めての取引はUSD/JPYを1万通貨買ったと思うのですが、数時間後に数千円の利益が出ました。やってみると巷にあふれているギャンブル、競馬やパチンコよりも簡単で、24時間いつでもできて、すぐお金になるのが魅力でした。また、チャート画面を見ながら買ったり売ったりするのは、さながらカジノゲームのような感覚がありました。

2006年から2007年の為替相場はまだサブプライムローン問題前で堅調でした。だから、みんなどんどん買って損切をしないという投資法が功を奏していたのです。しかし、サブプライムローン問題が発覚してからの数年間は、為替相場は酷いものでした。リーマンショックの暴落と、そのあとの理不尽な乱高下。まさに地獄でした。

私の敗北の歴史は、無責任なアナリストに頼ったことが原因でした。アナリストはこうした値動きを解説するために毎日いろいろなことをいいました。地学リスクがどうのこうの、ギリシャ危機がどうのこうの、指標がどうのこうの、要人発言がどうのこうの……。トレーダーは誰もが「今の値動き、これからの値動き」を説明してくれる人に飢えていました。そのニーズに答えるようにアナリストの分析がFX業者のニュース画面に流れ、私たちはそれを見て「なるほどいまこう動いたのはこの指標の影響だったのか」とか「これから金融緩和が起きるのだからこう動くはずだな」と安心したものです。しかし、そうしたアナリストの分析とは裏腹に、相場は天邪鬼の動きになりました。

そもそも、あのときに深刻に伝えられていたサブプライム問題やギリシャ危機などは、2020年の今はほとんど語られていません。今は一体どうなったのだろうか？今はまったく問題なくなったのだろうか？と首をかしげます。

このようにアナリストの分析があてにならないのは、今でも変わっていません。彼らが相場は弱気であるといえば、突然吹き上がり、株式はこれからも上がるでしょうと言えば、突然下がり出すのです。そしてなぜそうなったのかといえば、「金融緩和がいまひとつだった」とかまた、説得力のあるようなないような説明をして、のらりくらりとかわされ、結局いつも損をするのは投資する人のほうでした。

私はトレードを初めてほどなくして、アナリストをはじめとしたマスコミが伝える為替ニュースは全部、確信がない推測にすぎないことに気づかされました。だってそうでしょう？今の値動きをアナリストはすべてを見通している神様のように説明してくれますが、相場を動かしているのはほかでもないトレーダーたちです。彼らがなぜ売ったのか、なぜ買ったのかは、全世界にいる彼らに同時にインタビューして、その結果をリアルタイムで集計しない限りはわかるはずがありません。にもかかわらず、アナリストがそれを瞬時に理解しているなんておかしい話だと思いませんか？結局彼らは経済ニュースを売るという商売をしているにすぎません。さも当然のような理由をつけてニュースを欲しがる客に売りつける。そのような商売に乗せられているから大損をする。そんな裏も取らないブローカーの推測がさも事実のごとく、毎日NHKのニュースで伝えられている。こんなおかしな虚業の証券業界に踊らされるのは、もうこりごりです。

それから私は、FXのニュースサイトを一切シャットアウトしました。そしてチャート画面だけ見て、デイトレードをすることにしました。するとどうでしょうか？いまままでアナリストの発言に振り回されて大損していた時よりも、成績は明らかによくなってきたのです。このとき私は「トレードの本質」に一步近づくことができたのです。

しかし、こうしたトレードの好調も長くは続きませんでした。「アナリスト離れ」をした私の前に、次の巨大な壁が立ちふさがってきたのです。それがトレードにおける「決断のタイミングと実行」という壁でした。

トレードを続けていくには、エントリーしたあとに、利食いか損切をしなければなりません。ずっと利食いや損切をしないままなら、トレードとはいえないドル建て預金のようなものになってしまいます。そして、大きく儲けようと思ったとき、自ずとレバレッジが上がってしまい、トレードで動く金額も比例して大きくなっていきます。

これは勝っているときは上機嫌ですが、相場が逆行してきたときに、その巨額のマイナスを損切することがどうしてもできないのです。結果、冷や汗をダラダラと垂らしながら画面を見続ける日々が続きました。そして、そのポジションを助けるために入金を繰り返して、最後はそれをあざ笑うかのような急変動が起きてロスカットとなりました。果たして資金の7割が一回の塩漬けで吹き飛ぶことになってしまったのです。

追い込まれた私は、負けた金額を取り戻すために、何度もレバレッジを上げて相場に挑みました。そのたびに同じ結末が待っていました。いつかは逆行して、巨額の損を抱えてしまい、それを損切することができずに途方に暮れる。そして、それは必ずロスカットになりました。ちなみにロスカットになるときは、急激な為替変動を伴うことがほとんどです。たとえば雇用統計後のような急騰・急落が起こってロスカットになると最悪です。なぜ最悪なのか？ それは急変動時にFX業者のスプレッドが拡大しているからです。いつもはスプレッドが1以下なのに、急変動時はそれが20くらいに開く。そしてスプレッドが開いた時にキッチリとロスカットになり、かくしてFX業者に余分なお金を取られることになるのです。これが負け組トレーダーの黄金パターンでしょう。

そのころの私はトレードで勝つためのロジックを知らなかったのです。ただ、欲望のままにトレードを繰り返して、それが鏡のように跳ね返って痛い目に合う日々。お金はどんどん減っていきました。今思うと、最初に勝つためのロジックを知り、そして技術を身に付けておくことはとてつもなく大事なことです。私はそれを相場に多額の授業料を支払うことで学んできました。これから私があなたに教えることは、私が相場に何千万という授業料を払ったことで知り得たことです。そのトレードの本質を知らなければ、絶対に勝てるよにはなりません。いつまでも堂々巡りのままです。

■トレードで勝つための本質とは何か？

では、トレードで勝つためには何が本質で何が必要なのかと問われれば、トレードで勝つには「リスク管理能力」「予測力」「対応力」のスキルが必要なのです。そしてその歯車を動かすのが「精神力」になり、これらすべてが整っていなければならないのです。

勝つためのベース……リスク管理能力

トレードを遂行する技術力……予測力、対応力

それらの実行に必要……精神力

リスク管理能力とは、資金管理のことです。トレードを始めるまえにどのくらいの証拠金を用意して、どのくらいのスパンでトレードをして、どのくらいの値幅で利食いや損切をするか？ 1トレードのリスクは総資金の何%が適切か？ あるいは1トレードのリワードは総資金の何%が適切か？ トレードを始める前の段階で決めておかなければなりません。9割方のトレーダーが、意識はしていても守れてはいません。

リスク管理能力が低くなると、トレードになりません。自分が克服できるリスク（金額）以上のトレードをすれば、損切ができなくなって塩漬けになります。こうなった段階でもう次のトレードができなくなるのだからトレードは破綻して、あなたはトレーダーではなくなります。

予測力とは、相場の流れを分析する力です。エントリーする前にテクニカルツールを使って、相場がどういう状態なのかを把握する。そして、優位なエントリーポイントを探し出す。そして実際にエントリーするまでが、予測力に含まれます。テクニカルツール

を使う前提に相場に集うトレーダーの「人間心理」の理解が非常に大切です。この心理を理解していないと、不毛なニュースに右往左往されることとなります。9割方のトレーダーは、テクニカルは意識していても、自分が儲けるための皮算用ばかりで、他人の心理には無頓着なのです。

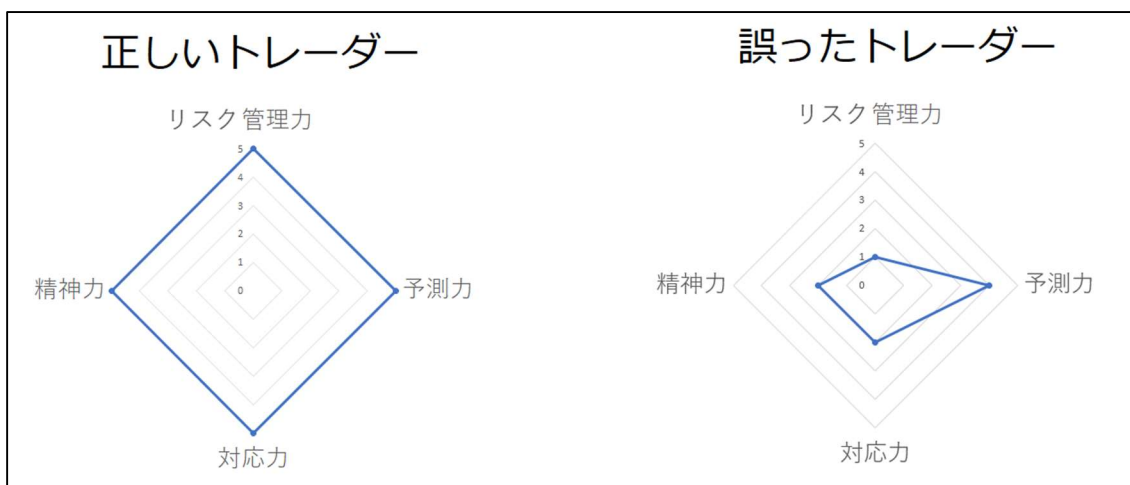
予測力が低いというのは、自分の利益と損のことしか考えていないからです。他人の利益と損のことまで考えを巡らせなければなりません。相場ではどこで買うのがいいか、または売るのがいいかというポイントがあります。相場に参加しているトレーダーの心理と重ね合わせて、それを見抜くことができなければトレードの勝率が悪くなります。ちゃんと優位性の高いポイントでポジションを持たなければジリジリと資金が減っていくこととなります。

対応力とは、エントリーしたあとに相場の状況に合わせて、損切や利食いの幅を適時調整する能力です。エントリーしたのに思惑通りにならないのなら、すぐに撤退するべきだし、反対に強いトレンドに乗れたのなら利を粘るべきです。これもやはり大部分のトレーダーが大雑把にやっています。

対応力が低いと、これもまたトレードの成績が悪くなります。対応力とは状況に合わせて押すか、引くかを判断する「立ち回り」の能力です。常に損は1 pipsでも縮められそうなら縮めて、常に利は1 pipsでも伸ばせそうなら伸ばそうとすることが大切です。利益を欲張ったり、損を拒んだりしているようだと対応力の評価は低くなります。また、対応力には監視力というのも含まれます。エントリー前、エントリー中、エントリー後、チャート画面を常に監視する力も必要になってきます。

精神力（メンタル）とは、トレードを実行するための精神・考え方です。トレードを淡々とやるには、精神力が正常でなければなりません。多くの人が異常な興奮状態でトレードをしています。過度な資金運用などを行えば、当然強いプレッシャーを受け、保身から損切ができなくなり、回転の速い売買ができなくなり、思考停止に陥ります。

まとめると、リスク管理はトレードをするに渡って、その枠組みを決める大切なスキル。予測力はエントリー前に必要なスキル。対応力はエントリー後にイグジットをするために必要なスキル。そして、その実行には冷静な精神力が必要となります。この4つの要素を5段階評価のグラフにすれば、トレーダーの能力が浮き彫りになります。勝つためにはこのグラフを均一に伸ばしていくことが重要です。



「誤ったトレーダー」のように一つの能力が秀でてでもトレードで勝つことはできません。4つの能力を均等に伸ばしていくことで、勝てるようになります。長所を伸ばすよりも、短所に感じていることがあるのならば、それを平均点にするこのほうが大事なのです。

本書はトレードを真面目にやりたい方に向けて書きました。しかし、その一方で、リスクを取って大きな稼ぎを得たいという欲張りな方に向けても書いています。この二つは反目するように思いますが、ある種の枠組みの中では両立は可能です。スキャルピングのトレードで、レバレッジ 25 倍以内であれば、10 万円の証拠金を 100 万円程度まで増やすことは可能なのです。今回はその方法についてもビデオで詳しく解説しています。

これから FX をやろうとされる方、いままで FX をやってきたけれども、なかなか勝てない方のための起爆剤としての参考書にして頂ければ幸いです。

皆様の FX トレードの成功を心からご期待しております。

著者 千草明